



**コロナ禍で増加している子育て・家庭教育相談件数(領域別)**  
**～当所の相談事業の実績から～**

新型コロナウイルス感染症が今年度も猛威を振り、影響が様々なところに現れています。子育ての真っ最中である家庭にもその影響が出てきています。コロナ禍でなければ幼少の子どもをもつ親は、公園に子どもと一緒に出かけたり、砂や遊具で遊ばせたり、そこで出会う同年代ぐらいの子と遊ばせたり、その親と会話することができます。ショッピングセンターなどに出かければ買い物で子どもをキッズスペースなどで自由に遊ばせたいところです。また、乳幼児の子育てをしている親が互いの不安や悩みなどを話す場、相談する場、地域での育児情報を交換できる交流の場である子育て支援センターの活動も制限されているのではないかと思います。子育てサークルの活動も同様です。このように子育て中の親はコロナ禍により悩みを打ち明けるなどの交流の機会がなくなってしまっているのではないかと考えます。

当所で開催している相談事業の内容に着目すると感染防止のため外出もできずに自宅に子どもと籠る生活となり、ストレスを感じている保護者が多く見受けられます。その相談事業の状況を詳しく見てみます。当所では「子育てダイヤル(電話相談)・メール相談」を開設していますが、相談件数(領域別)はコロナ前に比べ増加傾向にあります。電話相談では、令和元年度は657件であったものが同2年度は683件となり26件増、メール相談では同元年度は204件であったものが同2年度は249件で45件増となっています。

電話相談の内容を見てみると相談領域の中で増加した上位3領域は「家庭環境」「しつけ全般」「健康・安全」であり、それぞれ前年度比16件、13件、12件増加しています。(詳細は右上参照)メール相談の内容では、相談領域の中で増加した上位3領域は「発達障がい」「健康・安全」「心理・

性格」であり、それぞれ前年比20件、19件、9件増加しています。(詳細は下記参照)

**【電話相談件数(領域別)】(件数増加上位3件)**

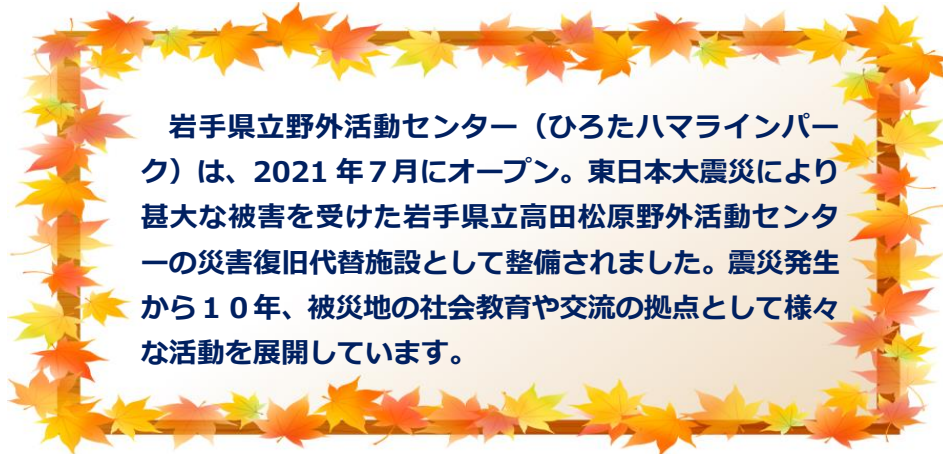
| 相談領域    | R元年度 | R2年度 | 増加 |
|---------|------|------|----|
| 家庭環境※1  | 29   | 45   | 16 |
| しつけ全般※2 | 25   | 38   | 13 |
| 健康・安全※3 | 15   | 27   | 12 |

**【メール相談件数(領域別)】(件数増加上位3件)**

| 相談領域    | R元年度 | R2年度 | 増加 |
|---------|------|------|----|
| 発達障がい※4 | 12   | 32   | 20 |
| 健康・安全   | 27   | 46   | 19 |
| 心理・性格※5 | 5    | 14   | 9  |

- ※1 育児方法のくい違い、家族の子どもへの接し方、家族関係など
- ※2 排泄排便の習慣、オムツのあて方はずし方、食事のしつけなど
- ※3 授乳、離乳(食)、断乳、食事(栄養面)、夜尿、予防接種など
- ※4 発達障がい:発達障がいの疑いや、不安、接し方など
- ※5 言うことを聞かない、親を困らせる、反抗、神経質など

また、令和2・3年度の4月から7月までの間の相談件数(領域別)を比較してみると、令和2年4～7月の総計は63件、令和3年4～7月の総計は78件で15件増加しています。その要因は、子育て中の親同士が悩みなどを話す機会等がないことが背景にあると考えられます。そこで、当所または他の相談可能などところにつなげることができるよう相談機関等の情報をお届けすることが解決を図るための一助になるものと考えています。県ホームページには、「相談窓口一覧～1人で悩むより、まず相談を～」(保健福祉部障がい保健福祉課作成)が掲載されています。また、各地には地域の子育て家庭をサポートする交流・相談の場「子育て支援センター」があります。このような情報のリンクを当所のホームページに掲載しております。当所の「子育てメルマガ」等によりその情報を発信するとともに、引き続き相談内容にあわせた機関の情報提供も行い、子育て中の家庭のお役に立つことができると考えております。



岩手県立野外活動センター（ひろたハマラインパーク）は、2021年7月にオープン。東日本大震災により甚大な被害を受けた岩手県立高田松原野外活動センターの災害復旧代替施設として整備されました。震災発生から10年、被災地の社会教育や交流の拠点として様々な活動を展開しています。



各種野外活動や集団宿泊研修、スポーツ合宿のほか、日帰りでの野外活動・創作活動・体育施設の利用など、さまざまな活動でご利用いただくことができます。（おむね5名以上から利用可）

【利用団体例】

- 学校 ●部活動 ●PTA団体 ●子ども会
- スポーツ少年団 ●クラブ ●サークル
- 青年会 ●婦人会 ●老人クラブ ●会社
- 家族 など…

|     | 定員  | 室数  |
|-----|-----|-----|
| 宿泊室 | 4名  | 42室 |
| 和室  | 10名 | 3室  |
| 和洋室 | 2名  | 1室  |

|        |       |
|--------|-------|
| 食堂     | 200席  |
| 研修室1・2 | 各100名 |
| 創作室    | 120名  |
| バス定員   | 44名   |



詳しくは、ホームページをご覧ください。  
<http://www.echna.ne.jp/~rikuzenyagai/>



〒029-2208陸前高田市広田町字大久保124-1  
TEL：0192-22-9800  
FAX：0192-22-9810  
Mail：hamaline@sposhin.echna.ne.jp



イメージキャラクター「はまピー」  
「ひろた」の文字、カモメ、ワカメをモチーフにしているキャラクター。はまピーの中にある「ひろた」の文字を見つけられますか？

## 令和3年度 生涯学習推進センター事業等実施計画（11月～）

| 区分                 | 研修・講座名                   | 内 容   | 期日等  | 対象の詳細                                    | 定員   |
|--------------------|--------------------------|---|--|--|------|
| 主に市町村・施設・関係職員を対象   | 人づくり・地域づくり関係職員等研修講座      | 地域づくりを担う地区センター・公民館職員等のスキルアップを図る研修                     | <b>県北会場 11/12（金）</b><br><b>沿岸南部会場 11/30（火）</b><br><small>※中部・県南・宮古会場は終了しました。</small> | センター・公民館職員、市町村生涯学習・社会教育関係職員、他部局職員等       | 各 20 |
|                    | 子育て・家庭教育相談担当者研修会Ⅰ        | 子育て支援・家庭教育支援にあたる電話相談等職員及び保護者支援にあたる子育て支援人材のスキルアップを図る研修 | <b>12/6（月）</b>   | 県・市町村電話相談担当者、子育て支援関係者、岩手県子育てサポーター        | 30   |
|                    | 地域安全防災研修会                | 地域防災訓練に関する研修  | <b>12/7（火）</b>   | 県・市町村生涯学習・社会教育関係職員、地域づくり団体・NPO関係者、学校関係者等 | 40   |
|                    | 子育て・家庭教育相談担当者研修会Ⅱ        | 子育て支援・家庭教育支援にあたる電話相談等職員及び保護者支援にあたる子育て支援人材のスキルアップを図る研修 | <b>2/14（月）</b>   | 県・市町村電話相談担当者、子育て支援関係者、岩手県子育てサポーター        | 100  |
| ボランティア活動者・有志指導者を対象 | 地域学校協働活動推進員（コーディネーター）研修会 | 学校の地域連携の推進と地域学校協働活動を推進するコーディネーター等の資質向上に関する研修          | <b>11/22（月）</b>  | 地域コーディネーター、市町村事業担当職員、学校関係者               | 35   |
|                    | 子育て支援活動交流研修会             | 家庭教育・子育て支援関係者の資質向上とネットワーク形成に関する研修                     | <b>12/14（火）</b>  | 岩手県子育てサポーター、子育て支援関係者、市町村家庭教育・子育て支援担当者職員  | 45   |

### 岩手県生涯学習推進研究発表会

令和4年2月3日（木）・4日（金）

1日目 事例発表・協議 県内外の障がい者の生涯学習に関わる事例

講 演 「障がい者の生涯学習を考える」 講師：神戸大学教授 津田 英二 氏

2日目 研究発表①「社会教育におけるICT活用のあり方に関する研究」（1年次）

研究発表②「障がい者の生涯学習のあり方に関する研究」（2年次）

※詳細については、後日、お知らせいたします。



※センター事業につきましては、新型コロナウイルス等の影響により、オンライン開催または開催の中止をする場合がございます。予めご了承ください。

※センター事業等の情報は、生涯学習推進センターHP「まなびネットいわて」に随時掲載いたしますので、そちらをご覧ください。

野田村教育委員会から、特色ある事業について寄稿いただきました。

野田村教育委員会では、村内の文化財を保護し後世に語り継いでゆくため以下のような事業を実施しています。

## 1 文化財の保護・活用

### (1) 米田浜津波堆積物

野田村には、最も古いもので縄文時代早期のものから平成 23 年に発生した東日本大震災津波まで、約 7,000 年の間に三陸沖で発生した津波の痕跡（津波堆積物）が地層として残っています。このような地層は全国的にも非常に珍しく、古くから続く地球の営みを現在に伝えるものであるとともに、常に地震や津波などの自然災害と隣り合わせで生活してきた人々の歴史を伝える貴重なものです。この貴重な地層を後の世代に語り継ぎ、村の独特の自然地層に親しんでもらうとともに、過去の津波の恐ろしさを伝えていくことを目的として、村の天然記念物に指定し保護する活動を進めています。



津波堆積物剥ぎ取り標本

### (2) 史跡「野田竪穴住居跡群」

史跡「野田竪穴住居跡群」は中平遺跡の一部であり、古くから古代（古墳時代～平安時代）の遺跡として知られ、昭和 29 年に岩手県指定史跡の第 1 号として指定されました。昭和 45 年からは案内看板を設置して、村の歴史を伝える名所として長く親しまれてきましたが、近年老朽化が目立ち始めていた

め、令和 2 年度に新しい看板に建直しを行いました。新看板は、最近の発掘調査成果を盛り込んだほか、村内の他の遺跡の紹介もしています。今後は各種のイベントで活用していく予定です。



## 2 埋蔵文化財

野田村には、縄文時代～江戸時代までの 46 ヶ所の遺跡が存在しており、住宅建設や水道工事などの開発工事に伴って発掘調査を行っています。令和元年度に野田小学校の隣接地で発掘調査を実施した際は、野田小学校の 6 年生を対象に説明会を実施しました。参加した小学生は「学校の隣にこんな遺跡があるなんて知らなかった。」と興味津々な様子でした。令和 2 年度は発掘調査がありませんでしたが、今後も発掘調査の際は地元の皆さんに遺跡や発掘について知ってもらうための取り組みを行いたいと考えています。

